



日本共産党・前都議会議員 東京民報おりにみ版

そねはじめレポート

2012年10月10日発行 第 59 号

そねはじめ事務所

114-0032

北区中十条2-11-6

Tel: 3907-1135

Fax: 3906-3225

都政のムダを追及、暮らしを守る具体策を提案

都議会が閉幕

赤羽駅前で、都民の暮らしを支える都政への転換を訴えるそねはじめ前都議



知事が所信表明で触れなかつた暮らしの問題では具体策を提案。トリプル値上げで滞納者が計70万人に膨れあがっている国保・後期高齢・介護の保険料について、都独自にそれぞれ年5千円ずつ抑えられると提案しています。

共産党都議団は、2兆円近い外郭環状道路の着工や、築地市場移転の強行など都の巨大浪費を徹底追及しました。

《介護・医療保険料は合わせて一千万円の値下げが可能》

都議会は十月四日に、最終本会議を終え閉会しました。

都営住宅の基準は都で決められる!

《東京の実態に即した入居基準に》

都営住宅は5年前、国が収入基準を大幅カットし、大半の共働き世帯が申込みなくされてしまいました。

しかし最近、自治体自ら基準設定可能な法改正が実現。今こそ都が入居基準を改善し、新規建設にも取り組むよう強く求めました。

《就職につながる支援・対策を》

若者の半分が非正規労働で、正規でも3年で半数がやめてしまう厳しい雇用情勢に対して、都の対策は微々たるもの。都の職業訓練と具体的求人セットにした思い切った対策を迫りました。

防災では、「延焼遮断帯」を理由に半世紀も前の道路計画を急浮上させ押しつけるやり方が、まちの緑や歴史を破壊しかねない実態を、補助81号線による西ヶ原の無量寺立ち退き計画に町ぐるみの反対の声を突きつけ見直しを要求。いずれも都民とかけ離れた石原都政の姿勢を変えさせるまで、さらに粘り強く頑張りぬきます。

北区が社保病院譲渡で6つの条件を要望

すでにお知らせした北社保病院の譲渡について、運営医療法人から国への正式な申し出があり、国から地元北区に意見照会が行われました。

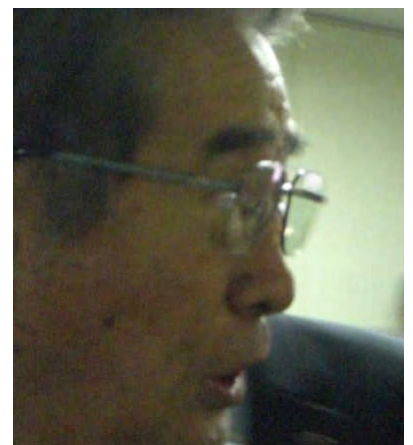
区は以下6点の意見をつけて了承すると10月5日までに回答。病院を存続させる会や区民に知らせもせず、すぐOKする姿勢は問題です。

今後は早期に増築を実現し343床の大病院としての医療充実にとりくむとともに、差額ベッドを増やさぬよう強く求めていきます。

区の見解は以下のとおり

- ①343床の中核病院として産科を守る、②小児科などの全夜間診療、災害拠点・周産期連携・感染症診療協力・急性期指定を継続
- ③住民の健康管理・救急病院・総合病院機能充実、医師会との連携
- ④老人保健施設の維持、⑤長期的安定的な運営、⑥病児保育の実施検討

都議会の共産党控室まえでふり返り、にらみつけた石原知事



安心して住める桐ヶ丘団地建替え求め十二人が意見陳述 高層住宅つめこみと自動車道路に批判続出

10月3日桐ヶ丘建替えへの都民意見を聴く会が開かれ「まちづくり住民の会」12名が都の審議委員の前で陳述しました。

■そねはじめ前都議が高層化に警鐘

発言は緑を守ること、高層化や自動車優先への不安や疑問が圧倒的でした。

そねはじめ前都議は11番目で発言。

高齢化した団地で建替えを行うとき孤立化を防ぐため、災害時の避難が難しく日常も高齢者が閉じこもりがちになる高層化を避けよと述べました。

■20年前から住民は低層階希望

前期建替えで10階以上の住棟が少ないのは、20年前、建替えに対する住民アンケートで低層や中層を希望する声が圧倒的で、都が計画を見直したためと証言。

桐北小跡に13階を建てる詰め込み型の設計は見直しすべきと主張しました。

■環八への近道ができてしまう

第2に、団地診療所横の区道を団地中央に変える計画を批判しました。都は、新しい区道による交通量変化は「周辺環境に

著しい影響をあたえない」というが大きな認識違いで、交通量急増と渋滞が予想されるからです。

そね前都議は周辺道路網の図を掲げ、いま団地前で左右に分かれる車の何割かが直進して、団地内のT字路で左右に分かれるようになり、渋滞になりやすいと指摘。

さらに区道の開通で、今よりスムーズに環状8号線に抜ける近道ができることを解明しました。

介護や医療の車両は今でも各号棟に行けるので交通量増大の弊害のほうが重くなるとして道路は現在のルートを基本にするよう訴えました。

写真は地図を示して陳述するそねはじめ前都議



そねはじめ切り絵の世界「NO. 7」 七五三から二人娘の成長を記録

84年ごろ現在住んでいる赤羽台のマンションに移転し、前の諏訪神社で七五三のお祝いをした時、娘の着物姿が愛らしかったので、切り絵で年賀状に使うと大変好評でした。(右の切り絵)

気をよくして毎年、娘の姿を切り絵にして年賀状を出すようになりました。

その後、あまり写真を撮らなかった年に、以前の写真からつなぎ合わせて作成したら「少し前のを使ったのでは」と見抜いた人がいて、ごまかしはきかないと思いました。

二人娘シリーズは96年の岩手旅行まででおわり、夫婦旅行に変わりましたが、わが子の成長の断面を記した貴重な記録になりました。

左は上の娘が高校に、下が中学に入学したときにつくったもの。上は自由な校風でのびのび育ち、下の子はまじめな服装を好み、内向的になって行きました。



ISSUE 1995 DEC